

〔内裏式〕十二月大讃式

晦日、夜、諸衛、依時刻勒所部屯諸門、近仗陣階下、近衛將曹各一人率近衛左近衛五人、開承明門、先共

〔源氏物語紅葉賀〕なやらふとて追讃十二月晦日除夜に讃を追ふ事なり、鬼やらひといふ追の字をやらふとよむなり、又讃の一字をも鬼やらひとよむ也、始自禁中迄何家行之。
〔源氏物語幻十一〕年暮ぬとおぼすも心ぼそきにわか宮のなやはんに音たかゝるべきこと、なにわざをせさせんと走りありき給もおかしき御ありさまをみざらんこと、よろづに玄のびがたし、

〔河海抄紅葉賀〕

四

中行事、公事根源、按に、河海抄に、讃を追事なり、鬼やらひといふ追の字やらふとよむ

作病書禮と儀志にも、惡鬼を禁中に逐ふとあるものこの義なり、又後漢書禮、同書に、驅疫癆之鬼謂之害除

同上

に、行讃と名付たり、是も義上に、おなじ逐除

同上

所謂逐除也とみえ

月より也、或は元年よりも、二年よりも、いふ説あれど、正しからず、難周禮、禮記月令集說、接通とみえたり、讃續日本紀延喜式、内裏式、論語、後漢書、荊楚歲時記、南部新書、玉燭寶典、按に、先臘一と禮記にみえたり、逐厲鬼也、なやらふ延喜式、小野宮年中行事、源氏物語、江家次第、河海抄、接に、河海抄に、追讃延喜式、小野宮年中行事、榮花物語、雲圖抄、溢觴抄、按に、古へついなども、なやらふとも云り、追讃其證は源氏物語紅葉の賀に、なやらふとて、いねきがこれをこぼち侍にとみえ、榮花物語月の宴に、つごもりのつといなに、殿上人ふりつけられれば、其頃ついいなとも、なやらふともいはれしましてまいらせられたり、おにやらひ年中行事秘抄、中行事公事根源、按に、河海抄に、讃を追事なり、鬼やらひといふ追の字やらふとよむ、又行事秘抄に、金谷を引て云、陰陽の氣相激化爲疾癪之鬼爲人家作病書禮と儀志にも、惡鬼を禁中に逐ふとあるものこの義なり、又後漢書禮、同書に、驅疫癆之鬼謂之害除同上、按に、同書に、驅疫癆之鬼謂之害除同上、同書に、行讃今明なれば、義逐疫疾とあれば、讃の別名なること、明かなり、